

ことしのわれらの 保育大會開催地

倉 橋 生

ことしのわれらの保育大會は、心まつ江の友の懇ろな招きによつて開かれる。あすこの宍道湖は、湖水ずきの筆者の、とりわけ大すきな湖水の一つである。湖水にもいろ／＼ある。それ／＼の美を以て人を惹くが、北海道の多くの山湖には、いづれも原始的な豪宕美がある。日光、箱根、榛名、十和田には、火山湖の深沈な幽邃がある。近江八景の琵琶湖は、流石に京に近い雅びさに富む。遠州の浜名湖は、舞阪あたり名にふさわしいさざなみと共に、遠州灘の瀟声も、大つゞみ小つゞみ枕に響く。宍道湖に至つては、大橋川によつて日本海に汪汪する平地湖の静かさである。

湖はすべて静を以て特色とするが、静も極まれば寂となり、人界を隔てた幽玄の靜さにさへなる。筆者が宍道湖を愛するのはその平明な温和と快活とにある。浅いとではないが、深さに底知れぬ底をおもわせるよりも、漣波微笑のチャイミングフルな趣きにある。殊に宍道湖の夕日には、いつも惚れ／＼させられる。筆者は屢々、松江大橋の袂にある旅館の樓上でそれに酔うた。また、夕近くこの湖辺を過る上り列車の窓から、いつもその西の雲に見とれた。空気の加減か北光線のためか、山陰東海の夕紅とはちがつたおとなしい艶媚の光を帯びてたとえば湯あがりのうらわかい乙女の、ほんのりとした頬のつやを連想させる。そして、おもはゆさに、こちらも思わず頬を染めるのである。ことしの大会に集る人々は必ずこの美しい処女湖に迎えられるであろう。そうして、おと／＼の大会に、佐渡へ渡つた荒海の美や、去年松島に賞でた奇岩奇松の美とは、また別趣の美を、この湖水に見出すであらう。そうして、幼児の友

の、いつも和を好む心を、陶然たらしめず
に措かないであらう。

去年の大会で、今年の大会地が松江市に
予定されたことを聞いたその時から、筆者
は目前に、この大好きな宍道湖を描き、その
朝夕の和光に迎えられる全国の同友諸君の
喜びとなごやかな交りを心に想うたのであ
つた。

平和憲法を誇る国も、世界の和の中心と
なることは、必ずしも容易でないらしい。
国内の現状も亦、何かといえれば対立闘争の
激しさが到るところに渦巻いている。和の
心を悲しませるところばかりである。せめて
幼児の友を以て任ずるもの、その会合にお
いて他意なきの快感を満喫しようではない
か、分化は発達の法則であつても、それは
分離を意味することではない。対比は進展
の方法であつても、それは闘争の興味で
ない。己に則することは自己に忠なる結果
であつても、他を排するのは自他を安定せ
しめる所以ではない。類を以て集るは自然
であつても、異を以て拒むは狭隘な偏執で
ある。大会地に近く出雲大社がある。それ
は、縁を結ぶの和合の神様だと聞いている。